



安心安全な地域づくり

1. ええやんビープル
2. 子どもがまんなか地域～安心安全を支える活動～
3. 「子ども110番の家」つてなあに?
4. 誰もが安心して食べられる子ども食堂

みんなが主役！誰もが心豊かに暮らせるまち山口を目指して、はじめの一步を応援する市民活動情報紙

ええやんヒーロー

誰かのために 何かのために 活動している人をご紹介します

Vol.32
コミュニティカフェ ココのいえ副店長
なかがわ ゆき
中川由希さん

1989年生まれ、山口市出身在住。夫、愛犬と生活。体調不良により福岡の大学を中退。約4年の療養を経て塾の英語講師となり、2014年に結婚。2019年に山口市に帰郷し、前職を続けながら、同年11月にコミュニティカフェ ココのいえを立ち上げる。



地域交流を身近に！ 多世代が集う サードプレイス



1. 季節ごとに開催している多世代交流イベント
2. ココのいえで調理し、有償配布している子ども食堂のお弁当
3. 誰もが安心して参加できるためのお約束

コミュニティカフェ ココのいえ

イベント開催日と活動日に、ココのいえを開放。編み物好きの交流会や、生け花・お抹茶会、子ども食堂などを定期的に開催。不定期で、赤ちゃんや犬の足形アートなどのワークショップ、お金や栄養の講座等も開催。その他、店長の誕生日会やレクリエーションイベントも行っている。詳細は、Instagramや手書きのチラシにて告知。

https://www.instagram.com/coconie_87/

Photo/岡崎悠香

多世代交流と、居場所づくりを目指したコミュニティカフェを開業している中川由希さん。明朗活潑な彼女が乗り越えてきた苦難や、活動に込められた思い、夢などについてお聞きしました。

子どもの頃の経験と夢
小学5年生の頃に吉敷地区代表として子ども会議に参加したことがきっかけで、ボランティア活動を始めました。まちづくりや地域を盛り上げるためのイベントを行っていて、6年生の時には「将来、山口市の内閣総理大臣になります」という未来への思いを市報に載せていただきました。自分たちの力で地域づくりをして山口市を活性化したいと子どもながらに考えていたんです。

中高生時代には、知的障害や肢体不自由の子どもたちの余暇活動のお手伝いをしていて、絵本の読み聞かせに参加したことは今でもよく覚えてます。意思疎通の方法を考えているうちに、福祉関係に自然と関心を持つようになり、特別支援教育の教師を目指すようになりました。そして、恩師のサポートのおかげで福岡の大学に入学でき、学生時代もボランティア活動を続けていました。

挫折を乗り越えたその先に！
しかし、ストレスや過労から身体を壊し、夢半ばで大学を中退することに。約4年の療養生活を経て、英語の塾講師として少しずつ社会参加ができるようになった。

山口市初の試みに挑戦

昔は隣近所で子育てをしていた時代がありましたよね。そんな風に、地域全体で子育てできたらなあと思っていました。いざという時に協力して支え合えるあたたかい地域づくりがしたい。また、安心して地域で子育てができたら良いなという思いから、子ども食堂をやろうと思うようになりました。

町内の方たちに、子どもの安心安全や居場所づくり、子どもの虐待防止、地域コミュニティの大切さを説明しながら声をかけをし、ひとりふたりと徐々に仲間を増やして2021年4月に「西惣にここにご食堂」を結成。お弁当を配布するというかたちで活動を開始しました。

そもそも「誰もが安心して食べられる子ども食堂を目指したい！」という思いでスタートしたのですが、活動する中でボランティアスタッフのお子さんを通じて食物アレルギーのことを知り、アレルギー対応食の子ども食堂を実現したいとスタッフみんなで考えるようになったんです。アレルギー対応食の提供はリスクもあり、大変だから心配する声もありませんでした。しかしスタッフ一同思いは変わらず、どうすれば自分たちが目的としているところに到達できるかを考え、一丸となって準備を進めました。その甲斐あり約1年後、白石地域交流センターを拠点に、山口市初のアレルギー対応の子ども食堂として活動するようになったのです。

アレルギーっ子ども大丈夫！ 誰もが安心して食べられる子ども食堂

山口市内各地で開設されている子ども食堂の中で、「アレルギーっ子ども安心して利用できる」「西惣にここにご食堂」の代表徳田耕一朗さんに、子ども食堂を始めたきっかけや活動内容などを聞かせていただきました。



季節も意識しながらレシピを考案し、美味しい料理を提供

現在、月に一回完全予約制で配布している手づくり弁当は、食材や調味料にこだわり、アレルギー対応食であっても普段の食事と変わらない美味しさで提供しているの、リピーターがとっても多いんです。「いつも美味しいお弁当をありがとう」と書かれた手紙をもらったことでもあります。涙が出るほど嬉しかったですね。もともと美味しいものを提供したいって思いますが、何より子どもたちが楽しみに来られることがスタッフみんなの喜びになっています。

子ども食堂を始めたことで、町内や地域とのネットワークもできました。夏休みには地域交流センターで学生ボランティアによる勉強会をしたり、冬休みにクリスマス会を行ったり、万が一の災害に備えて災害時の炊き出しメニューに挑戦したこともあります。

これからも、アレルギーがある方もない方も、大人も子どもも、誰もが安心して利用できるような活動していきたいと思っています。日々忙しく過ごしている子育て中のお母さんたちの負担を月に一食分でも減らせたかと思っておりますので、遠慮なく来てくださいね。

西惣風！辛くない ガパオライス

- 基本材料 4人分
- 豚ひき肉 400g
 - 玉ねぎ 1個
 - パプリカ 1個
 - ニンニク 2片
 - 乾燥バジル 適量
 - ナンプラー 大さじ4
 - 醤油 小さじ4
 - オイスターソース 小さじ2
 - 砂糖 小さじ1
 - ごま油 適量
 - ご飯 2合分
- 作り方
- ①玉ねぎ、ニンニクはみじん切りにする。パプリカは1cm角に切る。
 - ②フライパンにごま油を熱し、ニンニクと豚ひき肉を炒める。肉の色が変わったら、玉ねぎ、パプリカ、乾燥バジルを加えて炒める。
 - ③オイスターソース、醤油、砂糖、ナンプラーを加えて炒める。
 - ④器にご飯を盛り、③をのせてできあがり。



お好みでレタスや小松菜を添えても美味しいですよ♡

クイズに答えて ふわふわ安心タオルをもらおう

- ハガキまたはメール、もしくは右のQRコードより以下を明記のうえ、さぼらんてまでご応募ください。
1. お名前・郵便番号・ご住所・年齢・職業・電話番号
 2. クイズの答え
 3. ええやん新聞を手に入れた場所
 4. ええやん新聞32号へのご意見、ご感想
 5. 取り上げてほしいテーマ、市民活動団体
- ※ご記入いただいた個人情報は、その目的以外での利用いたしません。

地域の人々が元気に活動するために、快適な睡眠をお手伝いする中央寝装様よりご提供いただきました。

今治タオル (フェイスタオル)

5名様

締切 2025年 12月10日

当日消印有効。当選者には引換券を郵送いたします。賞品は中央寝装店舗(山口市白石1丁目4-6)での受け取りとなります。

市民広報記者編集後記

週に一度「市民広報記者」としてええやん新聞の制作に携わるのは、子育て中のママたち。誰かのために頑張っている人や団体を取材し、その感動を市民に届けたい。

開光 元市民記者も活躍している西惣にここにご食堂の「みんながここの笑顔で暮らせるように」とスタッフ全員が力を合わせて活動しています。

吉田 これまでの経験を糧にして、子どもたちの夢を叶える山口市で活躍中。山口市のまちづくりを推進するために、子どもたちの夢を叶える山口市で活躍中。山口市のまちづくりを推進するために、子どもたちの夢を叶える山口市で活躍中。

桑重 大人たちに囲まれた中で、緊張しながらも頑張ってきた子ども記者の「家」のリスが学校から配られたこと、子どもたちの意見を聞き出し、一緒に取り組んでいることが素敵だと思いました。

活動日には、赤ちゃんから90代まで、本当に幅広い世代の方が参加してくださいます。今の時代、世代を超えた交流はなかなか自然には生まれにくくなっているのが、こども大事だと思っています。

さらなる夢に向かって
大学を辞めざるを得なかった時はすごく落ち込みました。でも、人生は思い通りにいくわけではない。予期せぬ出来事があったからこその、今があります。そうして自分自身が楽しむことが最も大切！楽しんでる人のまわりには自然と人が集まってくるもので、その積み重ねが地域を元気にしていくのだと思います。いずれは、教師を目指した頃からの夢である、障害がある方の居場所づくりもしていきたいです。

目標は昔ながらの「近所さん」
初期費用を抑えるために選んだ「住み開き」という形も、昔おばあちゃんの家に「近所さん」が集まっていたのと同じように、結果的にとても良かったんです。玄関を網戸にしていると、小学生が「ココちゃん」と言って網戸を開けて寄ってくるんですよ。もうすぐあの子が帰ってくるんですよ。近所のおばあちゃんもいつも通り散歩してるんですよ。こういう地域の目こそが、安心安全な暮らしにつながるんだと感じます。

活動日には、赤ちゃんから90代まで、本当に幅広い世代の方が参加してくださいます。今の時代、世代を超えた交流はなかなか自然には生まれにくくなっているのが、こども大事だと思っています。

さぼらんて 山口市市民活動支援センター

さぼらんては、みんなのために活動している団体やこれからはじめたいと思っている人たちをサポートします

次号もお楽しみに♡

さぼらんちゃん てつて

山口市市民活動支援センターさぼらんて
〒753-0047 山口市道場門前 2-3-6 どうもビル1階
TEL 083-901-1166 FAX 083-901-1165
メール info@saporant.jp

「こども110番の家」 なかに

こどものための
ええやん
shibih

ほとくの通学路にあるお店に「こども110番の家」の標があるんですが、どんなことをしているか、入ってみよう。

「こども110番の家」について取り上げてほしいという声から寄せられました。そこで今回はメッセージをくれた小学2年生のいつきくんが子ども記者になって、「こども110番の家」に登録されている「中央寝装」さんへ話を聞きに行きました。

よくお願いします
子ども記者
いつきくん

なんでも聞いてね
中央寝装
山口すみれさん

Q どんな時に利用していいんですか？

A こども110番の家は子どもを犯罪から守るために設けられていて、怖い人やおかしいな？と思う人がいたら飛び込んでもらって大丈夫なんですけど、転んでケガをしちゃったり、トイレに行きたくなったり、何か困ったことがあった時もきていいんですよ。

Q こども110番の家はいつからしていますか？

A 通学路で見守り活動をしていた方に紹介されて20年くらい前からしています。

Q 今まで何人くらいの利用がありましたか？

A うーん…たくさんあって人数は覚えてないなあ。実はトイレに困って利用する子が多いよ。

質問は以上です。こども110番の家についてよくわかりました。これから何かあった時に安心して利用できます。たくさんの人にこども110番の家のことを知ってもらって、困ったときに助けてくれる人や場所があることを伝えたいです。ありがとうございました。

こちらこそありがとう！
何かあったら気軽にきてくださいな。

こども110番の家が近くにあると安心だね！

もしもの時のためにこども110番の家がどこにあるかをチェックしよう！

こども110番の家は、子どもたちが登下校時などに身の危険を感じた時に避難場所としてかけこみ、警察へ110番通報するための場所です。山口市内では現在1000力以上のこども110番の家が設置され、学区ごとに子どもたちの安全確保のために活動が行われています。

情報提供：山口市教育委員会 社会教育課

取材協力
こども110番の家
株式会社中央寝装
住 所 山口市白石1丁目4-6
U R L https://sleep-d.com/

子どもの意見で地域課題を解決！



小・中学生、高校生が一つのグループになってアイデアを出し合う様子



熟議で提案した産業フェアのステージ企画を運営する中学生

大内地域では6年前に「大内子ども未来プロジェクト」を立ち上げ、小・中学校と山口中央高校の児童生徒を集めて地域課題について話し合う「熟議」を始めました。熟議は熟慮と討議を重ねながら当事者同士で意見交換し、課題解決を目指すグループワークで、主に生徒会の子どもたち約30人が集まって年2回開催しています。普段ふれあう機会の少ない異年齢の子どもたちで話し合いを行うので、縦割りのグループを作り、まずは大内中学校の1年生が作成した「人権ふれあいかかるた」で緊張をほくしてから熟議に入るようになっています。テーマとなる地域課題は基本的に大人が投げかけますが、グループワークでは子どもたちが主体となって、活発に意見を出し合います。地元の企業をPRする「おうち産業フェア」も熟議に参加した高校生の「地元で就職したいとは思って大内は働くところがない」という発言から立ち上がったんですよ。

他にも、横断歩道がない場所で道路を渡る大人を見た子どもに「交差ルールを守っていない大人が多い」と言われたことがありました。子どもは大人の行動をよく見ているんですね。その意見が出たことで、親子の交通安全教室がスタートしました。

こうして熟議を通して拾い上げた意見を地域づくりに反映することで、「自分たちの意見が通るならもっと地域に関わろう！」と、自分事として地域課題を捉えてくれるようになるんじゃないかと考えています。

大内まちづくり協議会

住 所 山口市大内矢田北1丁目10番11号
(大内地域交流センター内)
U R L <http://www.ohuchi-machizukuri.com/>

「元氣！笑顔！ともに支え合う大内」をキャッチフレーズに大内地区の住民や団体が連携・協力して大内地区の課題解決に取り組み、豊かで住みよいまちづくりを進めています。環境美化活動の「大内こみゼロ！プロジェクト」の他、サツマイモの芋ほりといった体験活動なども行っています。

地域で子育て「しゅっぽっぽ！」



たくさんの親子を見守ってきたしゅっぽっぽで開かれた笑顔いっぱい20周年記念イベント



嘉川自治連合会が行っている老若男女で育てる地酒のための米づくり

嘉川地域交流センター内にある、嘉川こども館「しゅっぽっぽ」は、みんなで子育てを見守りたいという願いを込めてつくられた子育て広場で、嘉川自治連合会のサポートのもと、嘉川子育て支援連絡組織「みらい」が運営しています。山口市の「地域型2つの広場」第1号としても注目され、子育て支援に関わる方が全国から視察にられました。「しゅっぽっぽ」はアットホームな雰囲気、季節の行事やリズム遊びなど親子で楽しく過ごせる工夫をしていて、地域外の親子もたくさん訪れています。出産されたご家庭や、子育て世代の転入家庭にプレゼントしている、しゅっぽっぽで利用できる「ティータイム券」も好評ですよ。嘉川を知る第一歩になればとの思いを込めたささやかなおもてなしで、ティータイムは利用者同士の仲間づくりの場にもなっているようです。

また、中学生がボランティアに来てくれるんですが、中には幼児期にしゅっぽっぽで遊んでいた子もいて、頼もしいですよ。地元中学生のボランティアサークル「きずな」はそんな子どもたちの自主的な地域活動から立ち上がりました。思春期に赤ちゃんとふれあうことは命の学習にもなると実感しています。

こうして、「みらい」に向かって地域で子育てを見守る、というサポート体制をとりながら、みんなで住みたくなるまちづくりの活動を続けていきたいですね。

嘉川自治連合会

住 所 山口市嘉川14651番地1
(嘉川地域交流センター内)
U R L <https://kagawaj.com/>

「住みたいね。嘉川！ひとよしものよし」という3つの目標をキャッチフレーズに掲げ、各団体と連携しながら住みやすい地域づくりをしています。嘉川こども館「しゅっぽっぽ」をはじめ、伝統文化の継承や、三世代交流を目的としたイベントの開催の他、地元産の米を使ったオリジナル日本酒づくりなども行っています。

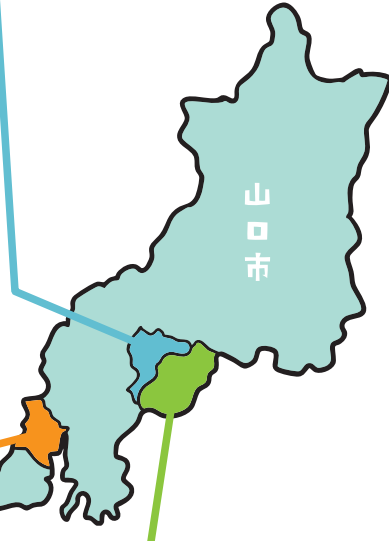
まとめ

子どもの健やかな成長を見守る活動をはじめ、地域で行われているさまざまな取り組みが私たちの安心安全暮らしを陰で支えてくれています。山口市内には21地域全てに「まちづくり協議会」が設置され、地域に根差した活動を展開しています。まずは自分たちの住む地域で行われている活動を知ることから始めてみませんか。



子どもがまんなか地域

安心安全を支える活動



竹でつながる地域とのきずな



地域の方や保護者と一緒に竹馬づくりに挑戦



小鯖子供見守り隊による寄り添い下校

小鯖の子どもたちは、地域には竹がたくさん生えていることや生活の中で竹を使っていた歴史があること、そして竹の使い道などを小学校の総合的な学習の時間で学びます。小鯖のシンボルとして受け継がれている伝統の竹馬大会や竹馬づくり、また小鯖八幡宮の宮司さんが教えてくださる篠笛づくりもその学習の一環なんです。

夏休みには、保護者や地域の方にも協力してもらって防災体験を実施しています。学校の体育館に段ボールベッドやパイプベッド、パーテーションを組み立てて避難所を作り、6年生は実際に宿泊もするんですが、ここでも竹で作った器と炭でご飯を炊く「ぼんぼら飯づくり」などをしています。この体験では、中学生がボランティアスタッフとして参加してくれるので、大変助かっています。

小鯖地域ならではのこのような活動に、親も子も地域も一緒に取り組むことで、地域全体で関係づくりができた、多世代交流の場にもなれば良いと思います。また、それが安心安全や防犯にもつながると思っています。子どもたちを地域で育てようと、積極的に子どもたちに関わってくださる地域の方がたくさんいらっしゃる事が本当にありがたいですね。これからも安心して日々見守り活動を実施している小鯖地域を目指し、活動を続けていきたいと思っています。

小鯖地域づくり協議会

住 所 山口市下小鯖2519
(小鯖地域交流センター内)
U R L <https://yamaguchi-osabachiiki.globa.com/>

「自然豊かで安心して住み続けられる小鯖」をキャッチフレーズに地域課題解決のためさまざまな活動を行っています。その活動の一つである「小鯖子供見守り隊」は2010年に始まりました。毎年4月に見守り隊と小鯖小学校全児童との対面式を行い、新入生においては入学後3日間寄り添い下校をしながら通学路の危険箇所などを伝え、年間を通して日々見守り活動を実施しています。ゆるキャラ「さぼろっちゃん」も在籍しています。